



大阪府立青少年海洋センター

「熱中症対策について」

昨年の夏は気象観測史上初まって以来という高温が続き、海洋センターでも熱中症を未然に防ぐための対策を実施してきました。

当センターにおける具体的な熱中症対策は以下のとおりですが、特に気温が35℃を超える場合は、センタースタッフが団体代表者の方と活動時間の短縮や、活動の中止等について相談させて頂いた上で実施することになっています。

海辺のプログラムをより安全で楽しいものにするために、熱中症予防のための事前準備を十分にさせていただきますよう、お願いします。

- 1、「水分補給」について …屋内外にかかわらず、こまめに水分を補給することが大切です。お茶やスポーツドリンク等、十分な水分をご準備ください。また、大量の発汗後に水だけを補給した場合は、熱けいれんを起こす可能性があるため、適宜、塩分を取ることも大切です。
※毎給食時にお茶の補充ができます。備え付けの急須を使って、水筒に補充ください。
- 2、「冷房」について …センター研修室には風量調節可能な冷房用ファンコイルを設置しています。高温のため屋外で予定していたお弁当を研修室に変更することが可能です。また、宿泊室には冷房用ファンコイルに加えて強制冷房のための送風口があり、夜間、入浴時など室温の高い時は稼働させて室温を下げています。
- 3、「休養室について」 …体調が悪くなった方には事務所の奥に休養室を用意しています。付添いの方と一緒に休憩していただけますので、遠慮なくお申し出ください。アイシング用に氷の提供や、保冷剤の貸出しも可能です。
- 4、「医療機関」について …体調不良や病気、ケガ等発生した時は、最寄の医療機関に連携して対応します。

令和元年7月25日

大阪府立青少年海洋センター

TEL 072(494)1811

FAX 072(494)1735

大阪府立青少年海洋センター

「熱中症対策について」

引率責任者の方へお願い



昨年の夏は気象観測史上初まって以来という高温が続き、海洋センターでも熱中症を未然に防ぐための対策を実施してきました。

当センターにおける具体的な熱中症対策は以下のとおりですが、特に気温が35℃を超える場合は、センタースタッフが団体代表者の方と活動時間の短縮や、活動の中止等について相談させて頂いた上で実施することにしています。

海辺のプログラムをより安全で楽しいものにするために、熱中症予防のための事前準備を十分にさせていただきますよう、お願いします。

- 1、「水分補給」について … 屋内外にかかわらず、こまめに水分を補給することが大切です。お茶やスポーツドリンク等、十分な水分をご準備ください。また、大量の発汗後に水だけを補給した場合は、熱けいれんを起す可能性があるため、適宜、塩分を取ることも大切です。※毎給食時にお茶の補充ができます。備え付けの急須を使って、水筒に補充ください。
- 2、「冷房」について … 宿舎、研修室には風量調節可能な冷房用ファンコイルを設置しています。高温のため屋外で予定していたお弁当を研修室に変更することが可能です。※入室時に冷房が入らないときは、事務所にご連絡ください。
- 3、「休養室」について … 体調が悪くなった方には事務所の奥に休養室を用意しています。付添いの方と一緒に休憩していただけますので遠慮なくお申し出ください。アイシング用の氷や保冷剤の貸出しも可能です。
- 4、「医療機関」について … 体調不良や病気、ケガ等の発生した時は、最寄の医療機関に連携して対応します。
- 5、「屋外の活動」について… 屋外の活動（海洋活動）については、参加者の健康状態をチェックしながら実施します。水分補給が出来るよう水筒を持参ください。※屋外の活動中は、帽子を着用ください。



令和元年7月25日
大阪府立青少年海洋センター
TEL 072(494)1811
FAX 072(494)1735

～保護者の皆さまへ～

大阪府立青少年海洋センター

「お子様の体調管理について」

(熱中症の対策等)



この度は大阪府立青少年海洋センターの事業にご参加いただき、ありがとうございます。夏の思い出をより安全で楽しいものにするため、お子様の体調管理や熱中症の予防については万全を期しておりますので、安心してご参加いただきますようお願い致します。

- 1、「水分補給」について… いつでも水分補給できるよう、ジャグに入れたお茶を用意しています。屋外活動やマリンプログラムについては時間を決めてこまめに水分をとるようにし、グループリーダーがお子様の健康状態をチェックします。夜間の水分補給は水筒にお茶を補充し、自由に飲めるようにしています。
- 2、「冷房」について … 宿泊室には風量調節可能な冷房ファンコイルを設置しています。当日の気温が高い場合は、より強制的に冷気を送るエアコンがあり、屋外から部屋に戻る時や、夕方の入浴後など体温が高くなる時に稼働させて室温を調整しています。
- 3、「高温対策」について … 外気温が35℃を超える場合は、マリンプログラムの時間短縮等、お子様の体力に合わせた内容に変更します。
- 4、「看護師」について … 期間中、資格を持った看護師がお子様の体調を管理しています。万一気分が悪くなった時に備えてアイシング用の保冷剤や経口補水剤等を準備し、医師の診断が必要と判断した場合は保護者の方に連絡します。
- 5、「スタッフ」について…安全で楽しいキャンプとなるよう、トレーニングを積んだ当センター専属リーダーを配置しています。



令和元年8月1日
大阪府立青少年海洋センター
TEL 072(494)1811
FAX 072(494)1735

「高温時の熱中症対策について」

気温が31℃（暑さ指数 WBGT28℃）を超えると、熱中症を発症する危険性が高くなる。常に気温の変化に注意するとともに、以下の熱中症対策を実施する。

気温が35℃（暑さ指数 WBGT31℃）を超える場合には、センター職員と団体責任者で活動時間帯の変更や時間短縮、活動自体の中止等について相談した上で実施する。

なお、熱中症状の疑いのある場合は、緊急性をもって対応する。

<利用団体への対応>

- ・ 団体責任者に以下の予防策を伝え、注意を喚起する。
 - ①運動する場合は定期的に休憩をとり、適宜、水分・塩分の補給を行なう。
 - ②体調不良や体力の低い人には無理に運動をさせない。
 - ③屋外では、必ず帽子を着用させる。
 - ④屋外での活動以外は、炎天下を避け、木陰や館内で過ごさせる。
- ・ 活動に際しては、センター職員と団体責任者と相互に連携し、安全な活動に取り組む。
- ・ 団体責任者は常に参加者の健康状態を把握した上で、体調が良くない参加者には直ちに活動を中止させるよう伝える。
- ・ マリンプログラム実施中に体調不良者が出た場合、団体責任者または救助艇職員の判断で陸に搬送し、回復処置を行う。
- ・ 熱中症が疑われる場合は、センター休養室で回復処置を行うとともに医療機関に連絡し、必要な場合は救急搬送を行なう。

<センタープログラム実施時の対応>

- ・ プログラム実施前に健康チェックをして、体調不良の場合は無理に参加しないようにする。
- ・ プログラムの実施前後に水分・塩分の補給を行ない、活動中も適宜、補給する。
- ・ センター職員は常に参加者の健康状態を把握した上で、体調が良くない参加者は直ちに活動を中止させて休息をとらせる等の回復処置をする。
- ・ マリンプログラム実施中においては救助艇職員に連絡して陸に搬送し、回復処置を行う。

<自主事業実施時の対応>

- ・ 高温が予想される場合は、参加者の年齢、体力に合わせてプログラム内容を変更、又は中止する。
- ・ 屋外プログラムの服装は体温の上昇を抑えるものを選択し、帽子は必ず着用する。
- ・ プログラムの実施前後に水分・塩分の補給を行ない、活動中も適宜、補給する。
- ・ 担当職員は常に参加者の健康状態を把握し、体調が良くない参加者は直ちに活動を中止させて休息をとらせる。
- ・ 屋外プログラム以外の時間帯は、できるだけ木陰か館内で過ごすようにする。
- ・ 事業期間中は毎日、起床および就寝時に健康チェックを行ない、体調不良者が出ないよう参加者の健康管理を徹底する。